日吉大社自然観察倶楽部通信

No.14　初秋の日吉大社

Ｈ２４年１０月１３日

少し肌寒い秋晴れの中、初秋の日吉大社を巡りました。

正面受付を出発し、橋の手前には、以前に設置した万葉集の植物を紹介した立て札(通信 11・日吉大社自然観察倶楽部総会を参照)があります。「つばき」の立て札を確認して橋を渡り、大宮川沿いへ。

左の写真は、セキショウを観察しているところです(右下の草)。端午の節句の菖蒲湯に使われるショウブの仲間です。平地から山地の溝や小川など、水のきれいな場所に見られます。　薬効は、『セキショウ』の方が高く、沈静、健胃、沈痛、利尿、抗真菌作用があり、入浴剤としても使われます。

参考までに、セキショウの花を紹介します。3～4 月頃にセキショウの葉をかき分けると、ひっそり咲いています。この変わった花の形は肉穂花序（にくすいかじょ）と言い、ザゼンソウやミズバショウなどサトイモ科によく見られます。

次に、タブノキやサカキなどを見て、山王鳥居へ向かいました。サカキは、神事などに用いられ、神社には欠かせないもので、日吉大社にもよく見られる木です。山王祭でも、祭りの中でサカキを切り出すところが見受けられます。(⇒直木神事：なおきしんじ)　　今の時期のサカキは、緑の未熟な実がついています。黒く完熟すると、鳥たちに人気のある冬の食べ物に早変わりです。

途中で、樹上に着いているセッコクを観察しました。東洋ランの仲間で、白い花を咲かせます。木の枝の上で一生を過ごす不思議な植物です。本来なら花の時期なのですが、この株は咲いていませんでした。

台風など風の強い日の後には、こういった植物が落ちているかもしれません。

山王鳥居を超えると、モミジの木が目立ちます。モミジとは万葉時代の「モミツ」（黄葉する・紅葉する）という言葉からきています。ちなみに万葉集には黄葉という漢字で出てきます。このモミツの代表として、イロハカエデがイロハモミジとなったようです。また、茶店横のトイレの近くには「オオモミジ」という木もあります。葉っぱのギザギザ(鋸歯：きょし)がイロハモミジより、細かく揃っています。また、果実（翼果）のプロペラの開きがイロハモミジの方が水平に開いています。簡単に見分けられるので、もうすぐ来る紅葉の時期に知っておくと、楽しみが一つ増えるかもしれません。

西本宮前では、お茶の花(←写真左)や頭上高くそびえるモミの木を観察しました。小川沿いに生えていたミヤマカタバミ（別名エイザンカタバミ）もとてもかわいらしかったです。

東本宮へ向かう道では、コウモリの潜む？場所を、目を凝らして探しました。探している時に、シカの鳴き声が聞こえるなど、日吉大社にお参りしているのは人間だけではないようでした。

秋本番はまだですが、日吉大社の中で童謡のように「小さい秋」を見つけてみるのはいかがでしょう？

☆ 観察したもののリスト　　2012.10/13　日吉大社境内

木・ツル：お茶(花)・タブノキ・モミノキ・サカキ・ヒサカキ・イロハモミジ・オオモミジ・セッコク・アリドオシ・フジ・ヤマフジ

草など：シロバナサクラタデ(花)・ホトトギス(白花)・・ショウジョウバカマ・セキショウ・コンテリクラマゴケとクラマゴケ（シダ類）

キノコ：コフキサルノコシカケ・カワラタケ

動物・昆虫：(コウモリ)・(鹿の声)・サワガニ・タゴガエル・ウラギンシジミ♂・ハナグモ

↑　コンテリクラマゴケ（シダ類）